

鈴鹿の風 中西 大輔 議員

市職員の意識改革を

(質問) 生活保護調査委員会の報告が生かされ、組織風土は改善されているか。コンプライアンス大綱、計画が策定され、職員にハンドブックが配付されているが、本市の組織風土は改善されていないのではないかと。今後の取り組みの方向性を問う。

(答弁) 生活保護調査委員会の報告を生かして、推進本部を設置、推進大綱の策定、また、推進計

画によってコンプライアンス*の推進を進めてきた。年2回のコンプライアンス推進旬間を設定し、意識向上に努めている。

職員の判断や行動が市民に及ぼす影響を認識した上で職務に当たることが必要と考えている。人事異動では専門的知識を生かせる組織体制の構築に努めたい。若手職員の管理職登用も必要と考え、積極的に登用したい。

*コンプライアンス…法令遵守。特に、企業活動において社会規範に反することなく、公正、公平に業務遂行することをいう。

その他の質問 ○学校施設維持更新の方針について

リベラル鈴鹿 森田 英治 議員

マイクログリッドによるエアコン設置について

(質問) 環境省の補助事業による小中学校のエアコン設置のためのコストについて問う。

(答弁) 平成27年度の年間電気料金は、市内小中学校合わせて1億1,130万円で、単純に、エアコンを導入すると1億4,470万円になると見込まれる。

今回のシステム導入・照明のLED化により、電気料金は1億783万円と現在より少なくなると

試算しているが、設備維持費が年間766万円必要になる。また、文部科学省の補助事業を利用することで、当初計画していたエアコン設置事業に比べ、初期投資総額は32億5,000万円と増加するが、環境省からの補助基準額の2/3の補助により、実負担額は少なく済むと試算され、本市の負担額は14億1,000万円となる。

今年度中に小学校1校、中学校5校の工事を完了する予定である。

その他の質問 ○震災発生後の対応について

自由民主党 鈴鹿市議団 森 雅之 議員

鈴鹿市の公共交通について

(質問) 今後のバス廃止路線への対応について問う。

(答弁) 今後の廃止路線への対応については、既存路線バスやタクシー事業者との競合関係や本市の財政状況を考えると、これまでと同様の手法で新たなC-BUS路線の開設に取り組むことは難しい状況にある。これからは、地域の方が自ら事業の担い手として運営協議会を設置していただけるよう、本市は、

地域にふさわしい運行計画の作成、自主的な取り組みを推進していく。運行経費については、公的負担、利用者負担、地域負担で賄う。運行形態、経路については、地域の方と十分に協議し、持続可能な新交通システムの構築を目指す。地域において、新たな地域の公共交通システムを構築していこうとする機運が高まれば、地域の方と協議・調整を行いながら事業化を進めていく。

その他の質問 ○北勢・中勢地域の幹線道路ネットワークについて

鈴鹿の風 永戸 孝之 議員

問題行動、学力調査結果と課題改善

(質問) 基本事業重点施策と成果指標改善について問う。平成25年度に、国において第2期教育振興基本計画が策定され、第1期計画では必ずしも十分ではなかった成果目標・指標を明確にした。

しかし、本市の教育振興計画の27項目の重点施策の指標は、成果指標ではなく、活動指標である。例えば、「5-1②いじめ防止の推進」では、

保護者・地域への人権啓発活動に取り組んだ学校の割合「現状72.5%を4年後80%」と、目指す姿の実効性を高める明確な成果数値になっていないが、どう考えているのか。

(答弁) 成果指標は、事業本来の目的に対する成果であり、活動指標は成果を求めるために実施した活動量である。教育基本計画の施策の基本的方向に成果指標を設定している。基本事業は、事業の実態を分かりやすく説明するために活動指標を設定している。